

新バイオファミリー6期生を迎えて

「縦コン2011」開催

応用バイオ科学科では、北は北海道紋別から南は宮崎日南まで、総勢145名の新バイオファミリーを迎えました。今年の新生は平成18年の開設以来6期生となり、男子学生96名(66%)、女子学生49名(34%)の編成です。4月15日に、新バイオファミリーのスタートを祝して、先輩である2~4年生、さらに大学院生が第1食堂に駆けつけ、新生を盛大に歓迎しました。



全員で記念撮影!



友達が増えました!



キャンパスツアーの表彰式の様子

学内での新入生ガイダンス

震災の影響で、例年より約1週間遅くキャンパスライフが始まりました。新生は、慣れない生活の開始に、多くのガイダンスをこなさねばならず大変だったと思います。履修方法や時間割作成では、3年生7名(松木彩香さん、寺嶋霞さん、後藤裕夏さん、鈴木芽子さん、久保田光さん、古田一馬さん、佐藤孝昭さん)と、2年生8名(岡友紀さん、合田瑞紀さん、新倉一希さん、渡邊茜さん、近藤恒平さん、宮国比呂夢さん、野島政宜さん、松浦芳樹さん)の指導のもと、予定を3時間ほど過ぎても熱心に残って時間割を立てていました。また、4年生が中心となって企画したキャンパスツアーでは、これから利用する大学の施設や大切な掲示版等をスタンプラリー形式で回りました。タイムレースで商品があったため、自分たちの班ごとに作戦を立てて楽しんでいました。



熱心に時間割を作成しています



キャンパスツアーでの一コマ(ジャンケン大会)

学生の研究・課外活動報告

課題研究I、IIの成果が投稿論文に!

学生生活のメインイベントである「卒業研究」は4年生で研究室に配属され行います。しかしその前に「研究」を体験したい人には「課題研究」をお勧めします。1期生の天願ルイスさん(平成22年3月卒業)は1年後期より課題研究に取り組みました。普段の日だけでなく、春休みや夏休みも澤井研究室に来て実験を行いました。その成果をまとめた論文が、微生物制御の学術専門雑誌である「防菌防黴」に掲載されました。学部生ではありますが、課題研究での内容が高く評価された結果です。皆さんも是非「課題研究」に挑戦して一定早く「研究生活」を味わってみてください。

化学工学会学生発表会にて優秀賞を受賞

3月5日に秋田大学で開催された第13回化学工学会学生発表会で、菅原穂穂さん(大学院博士前期課程1年、市村研究室所属)が「ブタ腎臓細胞培養スキャホールドの作製におけるプロトコルの最適化」と題した発表を行い、「優秀賞」を受賞しました。この発表会は、主に東日本の大学4年生と高専生を対象としたもので、研究内容はもちろん、質疑応答を含めたプレゼンテーション能力が他よりも優れていることが認められた価値ある受賞です。菅原さんは、「北里大学との共同研究の成果を発表しました。プレゼンの内容が高く評価され、周囲への感謝とともに身の引き締まる思いです。今後はスキャホールドを用いた臓器再生を目指し、さらに研究を進めていきます。」と今後の抱負を述べています。



化学工学会学生発表会「優秀賞」受賞式

「ホテルの有名な厚木市」にすることを目標して

応用バイオ科学科の有志が夢の実現プロジェクトの一環としてBioClub・ホテルプロジェクトの活動を始めて、今年で4年目になります。昨年度末には、3年生の久保田光さんと2年生の新倉一希さんを中心として、多くの水生生物の生育環境を整えたピオトープを製作しました。今年度は、4月に加わった1年生13名(安達穂さん、石井正勇さん、井上亮さん、小野寺悠斗さん、喜田亜由美さん、北島初美さん、坂田星成さん、佐野詩織さん、高橋正和さん、中野知治さん、中山玲奈さん、南口貴史さん、山野辺明さん)を加え、雨水を用いた給水装置の設置を行いました。今後は、ピオトープでの飼育に取り組むほか、新たに太陽光発電を用いたECOシステムの導入や展示会(6月)を予定しています。



ホテルプロジェクトのメンバー

海外バイオ研修の参加者
過去最多に!!

毎年2月の中旬から3月中旬の1ヶ月間、アメリカ合衆国のシアトルで開講されているバイオ研修IIに、昨年度は過去最多の11名(現4年生の中根威実さん、現3年生の阿部公平さん、幸田博成さん、伊藤庄吾さん、山川貴大さん、入江史雄さん、藤田龍太さん、五十嵐友謙さん、現2年生の大塚俊さん、増山満莉奈さん、大町理未さん)が参加しました。参加者からは、「シアトルでの生活は、新鮮で思い出深かった」という感想が寄せられており、日本では得られない貴重な体験ができることから、年々参加者が増えているのようです。6ヶ月の海外バイオ研修IIにも多くの学生が参加する見込みです。



バイオ研修を終えて

高校恩師を迎えての
卒業研究発表会

去る2月12日、2期生の卒業研究発表会が開催されました。入学時と比べ、心身共に一段とたくましく成長した4年生が、一年間の研究成果を発表しました。「食品・食糧分野」の発表会場では、浪江昌弘さん(埼玉県立杉戸農業高校出身、岡部研所属)の高校時代のクラス担任であった榎浦純夫先生が発表会に参加してくださいました。榎浦先生曰く、「私は高校で、食品分析や微生物の培養を生徒に指導していますので、大変興味深く見させていただきました。浪江君は4年間、本当に充実した学園生活を過ごすことができたのだと思います。今回、お招きいただき、本当にありがとうございました。」会場では、活発な質疑応答が行われ、有意義な発表会となりました。



卒研発表会後、榎浦先生と一緒に

震災の中、
巣立つ

3月11日、東北地方三陸海岸沖を中心とする大地震が発生し、卒業式が中止となりました。応用バイオ科学科の卒業生は全員無事でしたが、一つの区切りとしての大学全体の卒業式を執り行うことが出来ませんでした。研究室ごとに卒業を祝い、二期生は震災の中、元気に巣立って行きました。



菊地・澤井研の卒業パーティー